

No. 1069

参院新分野決まる

「保革逆転」を争点に23日間に渡ってくりひろげられた激しい選挙戦は7月6日、全国に騒音をまきちらして閉幕、7月7日、国民の審判をあおぐこととなった。

選挙のたびに退潮が続いていた社会党は地方区で改選数を4議席上回り前進、共産党は北海道・兵庫で初議席をとり、また全国区では全員当選を果たし議席を3倍増、民社党を抜いて参院で野党第三党に進出した。公明党も全国区的全員当選をなしとげ、改選議席を上回った。民社党は地方区で低迷、愛知の一議席を守ったものの、改選議席を一つ減らした。こうした野党の躍進にくらべ、自民党は北海道で全滅するなど、当選者は伸び悩み、地方区は改選数を8議席も下回る43にとどまり、全国区もタレント候補、二代目候補が当選したものの、今ひとつ伸びず、辛うじて「保革逆転」は阻止したが、保革の議席差は1ケタになり、自民党の参院運営は難かしくなった。

73.2%、参院選史上最高の投票率をはじめ今回の参院選には多くの話題があった。

——僕の選挙についての考え方が支持され大変うれしく思っています。——選挙運動をいっさい行わずに海外旅行へ出た青島幸男氏は早々と上位当選を決めた。

——組織がないとこんなに苦しいものなのか。しみじみとわかりました。孤独な戦いでした。——当落線上をさまようこと十数時間、かつての大スター山口淑子さんはファンをやきもきさせて、9日未明、夜がしらじらと明け始めるころやっと当選を決めた。

——カネ（金権選挙）とヒモ（企業ぐるみ）に負けた。わしは敗れ去ったとは思っていない。もう二度と立候補するつもりはない。——グァム島帰還兵候補、横井庄一さんは立候補当初「100万票ぐらいは」と豪語していたが意外にも票が伸びず落選。

——国会とお茶の間を直結するのが目的、議事堂の中で行なわれていることをすべて国民の前へひき出す——「トップ」がラスト。コロビアトップさんの得票はあまりよいスタートではなかった。9日、午前7時すぎ待望の当確が出た。前回の立川談志さんについて真打ちらしい最後の登場。「ホントの真打はボクの方だよ」としめくくった。